

静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	NO2020-40 「2015年出生児を対象としたハイリスク新生児医療全国調査」
当院の実施責任者研究 及び職名	小児科 副部長 大河原一郎
他の研究機関および 各施設の研究責任者	研究代表者 氏名：日下隆 所属及び役職：香川大学医学部小児科学講座教授 分担研究者 氏名：宮沢篤生 所属及び役職：昭和大学医学部小児科学講座講師
研究期間（西暦）	承認日から2015年12月31日まで
研究の目的	<p>日本小児科学会新生児委員会では、1990年から5年ごとに超低出生体重児（出生体重1,000g未満）の死亡率の調査を実施してきました。これまでの調査では、いずれも日本で出生した超低出生体重児の90%以上をカバーしており、本調査の結果は日本の周産期医療の水準を示す重要な指標として利用されています。また、超低出生体重児の分娩が予想される際に、ご家族に与えられる情報でもあります。これまでの調査の結果をみると、わが国の超低出生体重児の死亡率は調査のたびに改善しており、国際的にみても極めて治療成績が良いことが分かっています。</p> <p>本調査の目的は、2015年に出生した超低出生体重児の死亡率を明らかにするとともに、過去の調査と比較してどのように変化しているのかを明らかにすること、さらには死亡率に影響を及ぼす要因を検討することです。またわが国の周産期医療の特徴として、超低出生体重児の死亡率は諸外国と比べて著しく低い一方、未熟児網膜症や慢性肺疾患といった、早産児特有の合併症の頻度が高いことが分かっています。本調査では死亡率とともに、これらの合併症の発生頻度についても調査を行い、わが国における現状を把握、諸外国との国際比較を行う際のデータとして使用する</p>

	<p>とともに、今後のわが国の周産期医療の更なる発展につなげることを目的としています。</p>
研究の内容	<p>本調査の方法</p> <p>① 研究実施施設</p> <p>以下の 1)-3)のいずれかに当てはまる周産期医療施設</p> <p>1) 病床数 100 以上の病院で産科・小児科双方を有する病院</p> <p>2) 小児医療施設（こども病院など）</p> <p>3) 母子周産期医療センター</p> <p>② 研究実施方法</p> <p>下記に示す項目について、対象の患者様の診療録よりデータを抽出させていただきます。</p> <p>出生体重、在胎期間、性別、新生児搬送・母体搬送の有無、分娩形式、母体へのステロイド投与の有無、臨床的絨毛膜羊膜炎の有無、妊娠高血圧症候群の有無、児が入院した日齢、児の合併症（壊死性腸炎、新生児限局性消化管穿孔、慢性肺疾患、未熟児網膜症、嚢胞性脳室周囲白質軟化症、脳室内出血）、児の転帰（自宅退院、転院、死亡）、主たる死亡原因、退院時の体格、在宅医療の有無</p> <p>（氏名、生年月日、住所、電話番号など個人を特定可能な情報は含まれません。）</p> <p>調査への回答は各医療機関で行う。調査結果の集計および解析は日本小児科学会新生児委員会事務局で行う。解析で事務局外に持ち出しする際には匿名化をする。</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究では、氏名、カルテ番号、生年月日、住所、電話番号などのように、個人を特定可能な情報は抽出の対象に含まれておりません。</p>
問い合わせ先 (拒否等受付窓口)	<p>【研究担当者】</p> <p>所属：静岡赤十字病院 小児科</p> <p>氏名：大河原一郎</p> <p>住所：静岡県静岡市葵区追手町 8-2</p> <p>電話：054-254-4311</p>